



保幼小連携だより 第2号



—南城市保幼小連携事業—

令和4年7月15日

南城市教育指導課・子育て支援課

第2回保幼小連携事業 馬天小学校公開授業及び合同研修会 5月20日

生活科の授業

学校探検「もっとたんけんしてみよう」

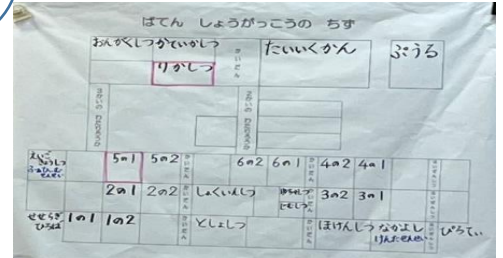
第2回の連携事業は、幼児期の生活が小学校の授業(生活科)へどのようにつながっているか学び合う研修を目的に実施しました。

一人一台タブレットを持ち がっこうたんけん

校長先生。お話を聞かせて下さい。



☆ばてんしょうがっこうのちず☆



◇目的をもって探検する。学校の施設やそこにいる人々の役割や働きを知る。自分との関わりに気づく。

授業の振り返り

探検してわかったことを伝え合う

* 自分の写した写真を確認する

どの写真を使ってどのように発表しようかな～。



合同研修会の様子

幼稚園、小学校のエピソード事例(6例)を基にグループ協議をする。事例から「主体的・対話的で深い学び」の実現と学びを生活科へどのようにつながっているかを協議。

《担任の振り返り》抜粋

授業の展開としては、生活科を中心に「どこに行きたいか」聞きクラス全員で行動した。1回目の学校探検は『子ども達だけ』で探検させた。「部屋の名前が分からない」「地図みたいなのが欲しい」となり全体地図を作成。3回目の学校探検をしたが、先生が事前に入室の許可をもらい、地図に落とし込んで子供達に渡した。グループ発表の方法を相談すると写真を撮ろうという提案があり実施した。この授業をやってみて、先生本人も楽しかったし、子ども達も分からないことが分かり次の授業に活かすことができた。

参加者(41名)。保育園、こども園、幼稚園、小学校計28名
指導課7名、子育て支援課6名

グループ協議の発表抜粋

幼稚園の事例で主体的に活動する姿や協同する姿がある。保育園では、子ども達の主体的な遊びはあるが、安全面上その遊びを止めることがある。小学校では、保育園・幼稚園で培った育ちを引き上げられていない。学びの連続性が大事であると痛感した。

Aグループ

馬天小・佐敷小の事例をみて、タブレットを持たせて大丈夫かと思った。スタカリでのんびりタイム等で自由な活動をさせる事で子ども達同士の仲間関係がよくできている事、教師が間に入る事で特性を拾って生活科の学びへ繋げていたと思う。Dグループ

保育園の先生の言葉で、「次どうしらいい」という問いかけがとてもいいと思った。Fグループ



☆演題: 幼児期からつながる生活科～主体的・対話的深い学びへ～

☆講師: 宮城 利佳子氏 琉球大学教育学部 講師 ○指導助言抜粋 ☆受講者の感想



○スタートカリキュラムは学校全体で取り組み、校内研修に位置付けてほしい。

○単元プランに子どもの姿、子どもの声を拾いあげてプランの中に書き加えることができると良い。

☆参加者感想: 「子供のやりたい思いがあるからやり遂げられる」という言葉が一番印象に残った。学習規律を教えることを優先してきたことを反省し、子供の思いや願いに寄り添うことを忘れず関わっていきたくと思った。

☆私達教師側も、小学校だけとどまる事なく、保育士や幼稚園教諭との対話の必要性や自身の体験を生かしながら、子供達とのやり取りを楽しんで生活科を充実させたいと思いました。